とはいえ、恵比須毘沙門とはいわない。これは事実、鞍馬の毘沙門天と西の宮の恵比須様との繁栄した当時を反映して成り立っている曲だと思うが、貞徳文集には「此の三幅対掛画、毘沙門、弁財天、恵比須三郎、相見候云々」とある。さすれば、この狂言一曲、まさにこの絵の讃とも云っつべしか。

百々裏話（31）

おもて　あきら

【謡曲作者付の色々―その一―】

謡曲または能の作者を考定しようとする際の資料として、『能本作者注文』『自家伝抄』『歌謡作者考』『観世大夫書上』『金春大夫書上』『二百拾番謡目録』などの、室町時代後期から江戸時代にかけて編纂された作者付がよく引合に出される。右の諸資料は、能勢博士の『能楽源流考』や、国語国文学研究史大成の『謡曲・狂言』に翻印されていて、比較的利用し易いものであるが、それらが著名であり過ぎるためか、現存する謡曲作者付がそれだけであるかのように誤解している向きが少なくないようである。

しかし事実はそうではなく、その内容はおろか、存在すらも知られていないような謡曲作者付が幾つか存在している。内容的には質がいいとは言い兼ねるものばかりであるが、謡曲作者考定の歴史を知るための興味ある資料であることに変りはない。以後数回にわたって、著名ならざる作者付の若干を紹介し、その系統や性質についても考察してみたい。

(1) 元禄謡本作者付

江戸時代には、観世流を中心として、数多くの種類の謡本が出版されていたが、元禄四年正月の年記のある奥付を附して、船戸半兵衛・古藤七郎兵衛・茨城（小川）多左衛門の三店が刊行した観世流内百番謡本（五番綴。全二十冊。三店連名本と各店単独奥付本があり、元禄十四年の再版本などの後刷本では『当流拾遺大成謡』の外題が添えられている）は、節付を詳細にし、面装束付や金春流との相違を記入するなど、特色が多く、謡本発達史上注目すべき善本と信じられる。この本は、各曲の最初に書かれた内題の下に、

頼　政　位序気破　世阿弥始
　　山城

などの形で、序破急の位や国名とともに、その曲を舞始めた人物の名を注記している点も他本に見られない一つの特色である。舞始めた人物とは、現代風に言えば作者の意であろうから、結果的には、この元禄四年の内百番謡本は、百番の謡曲の作者付を兼ねていることになろう。この謡本の内題下の舞始めの注記を綜合したものを、仮に「元禄謡本作者付内組分」と呼んでおきたい。

この元禄謡本作者付内組分の舞始めの注記を、舞始めたとする人物別に整理して示すと次の通りである。

〔観阿弥の分〕……2曲。　鍾馗。通盛。
〔世阿弥の分〕……73曲。
阿漕。芦刈。敦盛。海士。蟻通。井筒。鵜飼。烏頭。采女。梅枝。雲林院。江口。老松。姨捨。小原御幸。女郎花。杜若。景清。柏崎。春日竜神。葛城。兼平。通小町。邯鄲。清経。呉服。源氏供養。桜川。実盛。自然居士。猩々。白髭。隅田川。誓願寺。関寺小町。蟬丸。千手。卒都婆小町。当麻。高砂。忠度。竜田。田村。天鼓。東岸居士。道成寺。東北。融。朝長。錦木。鵺。野宮。白楽天。羽衣。芭蕉。鉢木。花筐。班女。檜垣。百万。富士太鼓。藤渡。二人静。舟橋。仏原。松風。三井寺。三輪。盛久。山姥。湯谷。養老。頼政。
〔禅竹の分〕……6曲
葵上。小塩。西行桜。玉葛。定家。遊行柳。
〔与二郎の分〕……1曲。　善界。
〔栄堅の分〕……1曲。　浮舟。
〔坂戸の分〕……1曲。　難波。

〔弥三郎の分〕……1曲。　舟弁慶。
〔十二大夫の分〕……1曲。　俊寛。
〔川上神主の分〕……1曲。　鞍馬天狗。
〔内藤々左衛門の分〕1曲。　夕顔。
〔始不知の分〕……1曲。
安宅。安達原。鸚鵡小町。鉄輪。殺生石。竹生島。唐船。半蔀。紅葉狩。八島。楊貴妃。
〔舞始不分明の分〕……1曲。　賀茂。

全百番のうちの73曲までが世阿弥によって舞始めたとされているわけで、彼の存在がいかに神格化されていたかがうかがえよう。与二郎・栄堅・坂戸・弥三郎などは、著名な作者付には全然現われない名であって、いかなる人物であるかがまず興味ある問題である。賀茂一曲だけが、「舞始不分明」と注されているが、それと、11曲に見られる「始不知」との間には差別を認め難く、編集者がたまたま賀茂の場合だけ別な注にしてしまったのであろう。両者を合せて12曲が舞始め不明の分であると見てよいかと思われる。

さて、右にのべた元禄四年の内百番謡本に対応する外百番謡本が、元禄十二年孟春に、近藤喜右衛門・古藤七郎兵衛・小河多左衛門の連名（または小河単独）で刊行されている。この外組本も、内題下に

和布刈　位破　長門　作者　音阿弥

などの形で、内組本とは違って「作者」の名を注している。この作者に関する注記をまとめたものを「元禄謡本作者付外組分」と仮称しておきたい。それを作者別に整理して示すと次の如くである。（土蜘一曲は、調査に使用した鴻山文庫本の第一丁が落丁であるため、注記も確認し得ていない）

〔世阿弥作の分〕……30曲。
嵐山。雨月。右近。簸。大江山。刀。咸陽宮。祇王。木曽願書。碪。元服曽我。碁。小督。小袖曽我。佐保山。俊成忠度。正儀世守。正尊。須磨源氏。摂待。大般若。玉井。藤栄。木賊。雲雀山。氷室。舞車。松尾。松虫。身延。

〔禅竹作の分〕……26曲。
淡路。碇潜。生田敦盛。岩船。大社。金札。国栖。車僧。現在鵜。絃上。源太夫。石橋。谷行。檀風。調伏曽我。東方朔。知章。巴。放生川。巻絹。松山鏡。三山。御裳濯川。六浦。室君。羅生門。

〔音阿弥作の分〕……14曲。
藍染川。花月。加茂物狂。九世戸。皇帝。高野物狂。七騎落。春栄。双紙洗。大仏供養。鳥追。和布刈。芳野静。弱法師。

〔連阿弥の分〕……19曲。
鵜羽。葛城天狗。鐘引。項羽。鷺。舎利。西王母。竹雪。丹後物狂。土車。鶴亀。道明寺。寝覚。野守。放下僧。弓八幡。夜討曽我。雷電。籠太鼓。

〔宗雪の分〕……6曲。
一角仙人。熊坂。小鍛冶。三笑。照君。望月。

〔作者不知の分〕……3曲。
歌占。張良。経政。

〔注記ナシの分〕……1曲。　橋弁慶。
〔未確認の分〕……1曲。　土蜘。

この分はまた内組分とはかなり趣きを異にし、世阿弥作は三割に過ぎない。音阿弥・連阿弥・宗雪などの人物が世阿弥や禅竹と並ぶ謡曲作者に擬せられているのも、著名な作者付に例を見ないことである。

一体この元禄謡本作者付の内組分・外組分は、いかなる素性の作者付で、どの程度信じ得るものなのであろうか。

それについての考察は次回以後に譲るが、この程度の問題は、学生会員諸君にとって手頃なものではなかろうか。著名な作者付などと対比して調査して見れば、謡曲作者付全般についての理解がかなり深まるはずである。正月ボケの解消、または迫り来る期末試験へのノイローゼ解消のためにも、勇気を出して取り組んでみてはいかが。

（39・12・20）